

# 米欧回覧

第33号  
発行  
米欧回覧の会  
編集  
メディア部会

日米交流百五十年記念シンポジウム

「アメリカングローバリゼーションと日本」  
日本プレスセンターにて大盛会!

ドナルド・キーン氏と松本健一氏を招いての日米交流百五十年記念シンポジウムは、日米協会の会長である大河原良雄氏らをゲストに迎え、十月二十五日(土)午後一時から、日本プレスセンターの十階ホールで行われた。会場には会員外の参加者も含め百四十名が集まり四時間近くにわたり熱心に耳を傾けた。

最初に大河原氏(元駐米大



左から松本氏、キーン氏、泉氏、(浅沼氏)

使)から幕末の日本を取り巻く国際情勢、とくに日露関係に触れたご挨拶があり、続いてキーン、松本の両氏からそれぞれのテーマで講演があった。休憩のあとは、泉三郎氏の司会により質問に答える形で両氏からそれぞれに貴重な意見の開陳があり、大変内容と意義のあるシンポジウムとなった。(詳細は二・三頁参照)

### 新年懇親例会は

「スイス」テーマで・・  
一月二十六日(月)

### 日比谷松本楼で

二〇〇四年は、日本とスイスの修好通商条約締結百四十年記念になるので、新年懇親例会は、スイスをテーマに催すことになった。

スイスは小国にもかかわらず幕末早い段階で日本へ使節団を派遣して積極的に通商を求めてアプローチしてきたお



満席のシンポジウム会場  
(日本プレスセンターホール)

り、わが岩倉使節団も十六日の長きにわたり滞在してチューリッヒ、ベルン、ルツェルン、ローザンヌ、ジュネーブの各地を回覧し、縁あさからぬものがある。現在、魅力的趣向を企画。中。乞う、ご期待!である。

### 十一月の全体例会

### ビデオ鑑賞と

### NPO化問題で討議

第三十回の全体例会は、十一月八日(土)午後、国際文化会館で行われ、一部ではビデオの映写、二部ではNPO化問題が討議された。

十一月二十五日(土)のシンポジウムに続く土曜日であったこともあり、とくに二部の出席者が少なかったが、それだけに中身の濃い議論や意見交換ができた。(詳細は四頁参照)

幕末維新期、岩倉や大久保が国事に奔走しまた逆境時代を過した舞台も訪れる今回の「関西歴史ツアー」はまことに感慨深いものがあった。

まず岩倉が生まれ育った京都御所だが、その古い図面には生家である堀川家、養家の岩倉家、それに歌の道を習った太閤鷹司政通家の邸も示してある。岩倉が政治の表舞台に登場する公家の大デモ「八十八列参」をしかけた九条閑白の広大な邸跡にも立ち、大久保や西郷と謀ったかの有名なクーデターの現場「小御所」も回覧した。九条や鷹司など五摂家の大きな邸に比べて下級公家の堀川や岩倉の小さな邸園も印象的だった。

### 歴史ツアーの醍醐味 岩倉・大久保、奔走の舞台

泉 三郎

し皇女和宮の降嫁で脚光を浴びた後、急転直下「大姦物」として追放され、洛外の小村の粗末な家に塾居させられていた旧居も訪ねた。  
ここでの五年に及ぶ不遇な時代が岩倉を鍛え、龍馬や大久保との密会を通じて薩長との連携による維新革命へのお膳立てを準備するのだ。

さらには西宮神社に移築された岩倉旧邸は、馬場先門にあった旧忍藩邸の一部であり、そこはまさに明治六年の政変劇の舞台だった。岩倉、大久保ら外遊組は奇跡的な逆転劇を演じて政権を取り戻すのだが、そのとき西郷、江藤、副島、後藤の留守組の四参議が押し掛けて最後の圧力をかけた現場である。しかし、岩倉は動ぜず「まろの目の黒いうちはお主らの勝手にはさせぬぞ」と咆吼した舞台なのであった。

本会の同好の士と共にする歴史ツアーは、海外も国内もまことに意義深く、楽しむ、興味が尽きない。

また、岩倉が公武合体に与

米欧回覧の会主催

十月二十五日(土) 日本プレスセンターホール  
日米交流百五十年記念シンポジウム記録

「アメリカングローバリゼーションと

日本のアイデンティティ」

趣旨説明・泉三郎氏

最近、グローバリゼーションという言葉が頻々と使われるようになったが、日本は、もう五百年近く前から、グローバリゼーションの波を受けてきたことになる。

第一の波は大航海時代のポルトガルとスペインのグローバリゼーションであり、種子島に鉄砲がくる、鹿児島にザビエルがきてキリスト教を伝える。これに対しては鎖国という私たちでアイデンティティを守ったと解釈できる。

第二の波はペリー来航で攘夷か開国かと大騒ぎになるわけだが、結局、岩倉使節団の派



ドナルド・キーン氏

というように積極的に世界のものを取り入れるという基本路線になった。しかし、「和魂洋才」という考え方から和魂の部分は何とか確保しようとする。それが結局明治憲法になり、教育勅語になったのだと思う。

第三の波は一九四五年の敗戦であり、アメリカの占領である。平和憲法、教育基本法、安保条約を結んでもう五十数年だが、その際に日本人のアイデンティティを何処で守るか、それには「象徴天皇」が一つの歯止めになったのだと思う。

●アイデンティティ  
グローバリゼーションも幾つかの側面がある。技術は一気に伝わる。次いで経済も伝わる。一番伝わらないものが、文化的なもの、価値観、宗教、風俗習慣、そういう伝統的なアイデンティティである。その部分もしか、戦後の日本の中ではだんだん風化してきて、今や特に若い世代はまるでアメリカ人のような感じになってしまっている。文化的なコアの部分の危

今日はグローバリゼーションの諸局面の中でも、とくに文化的なコアの部分に絞ってお話をして頂きたいと思う。

ドナルド・キーン氏 講演

●中国の米欧使節団

一八六八年に中国も世界一周の使節団を送っている。ただ、岩倉使節団と根本的に違っているところが面白いと思う。当時の中国人の信念は、文化は中国だけにあるというもので、色々なものを見てもそれは文化だと思えなかったようだ。とにかくどこ行っても同じような感想で、面白いけれどやっぱり我中国に劣っているというものである。例えばベルギーの製鉄所に行つて、機械を使うと一つの発見をするが、私達も機械を作るべきだという感想はない。そういうことで、この旅は後の中国の近代化にあまり影響を及ぼさなかった。

●日本の美意識

日本人についてはいろいろ批判があるが、間違いなく誇れるもの、それは日本人の美意識であると思う。埴輪の時代にも日本人は特別な儀式、美意識を見せていたし現在も続いている。日本の工芸は世界一だといつてもよい。

私は去年、足利義政について

■大河原良雄氏の

挨拶から

(日米協会会長、元駐米大使)

ペリー来航の直前に北の方から、西南の方からそして東の方から大変な勢力が押し寄せてきて、幕末の政府がこれに苦労したという歴史的事実があります。従つて、アングロサクソンによるグローバリゼーションの前に、うっかりするとロシアによるグローバリゼーションという事態がありました。

一八五三年、老中の阿部正弘は当時の国力では到底攘夷などは行えない、この際国を開いて外国と交流し、日本の国力を強めた上で国際社会に参加したいという考え方でした。情報を基に当事者あるいは現場の責任者が極めて適切な対応を図ったことが和親条約につながった



挨拶する大河原氏

日本としては開国がアメリカとの間でよかった、ロシアでなくてよかったと感じています。今日は、そのアメリカとの間で日本のアイデンティティのことを勉強しようという会だと思つて参上した次第です。

本を書いた。將軍として最低であったが、文化人としては最高で義政になってから新しい文明が始まったといえる。現在、日本人の心という場合はだいたい義政の時代まで遡ることができる。銀閣寺に義政の命令でできた茶室がある。それは、現在あらゆるところに見られる四畳半の茶室の原型である。

床の間もその時から始まっている。生け花も始まっている。また、狩野派の墨絵は義政が狩野正信を抜擢した時から始まった。要するにそこに日本独特の雰囲気、日本の独特の美意識があった。茶の湯がその時から始まり、日本人は特別な茶碗を使って、特別な温かい雰囲気を作つて話し合っていた。それ



松本健一氏

以前の平安朝、鎌倉時代の日本にそれはなかった。  
アメリカの歴史を書こうとするとき美意識を無視しても誰も文句言わないが、日本の場合、美意識を書かないと歴史は書けないと思う。  
日本という国があれば世界の美意識がなくならないという感じがする。日本さえあつたら美意識が残ると思う。

### 松本健一氏講演

一九八九年、東西ベルリンの壁崩壊以後の世界史は新しい次元の段階に入り、それ以後の日本のおかれた状況は正に第三の開国と考えている。十数年前から新しい一つの世界というものが始まった。

世界が一つになると、そこで当然起る問題は文明の異なる者同士が大きく対立する、あるいは文化が違うもの同士が大きな摩擦を起こすということである。そして、自分の国は自分で守るという一九一〇年代

第一次世界大戦の頃のような熾烈なナショナリズム対立というか覇権競争のようなものが激化すると見られている。自分の国を簡単に明確に主張あるいは確認できる手立てが第一次世界大戦の頃に比べると歴然と難しくなってきた。

そのために、文化、言語とか宗教などの軸を頼りに自分の国とは何かということの問い直しが世界各国に起こっている。言語の大切さや歴史教科書の書き換えが日本だけでなく台湾、中国や韓国でも起こっている。自分の国は何かということとを文化的に確立をすることが必要であり、そのために歴史の再認識が必要と考えている。

#### ●第一の開国

ペリーの時には手本としていた中華文明から大きく西洋文明へと転換することが必要だった。基本の戦略は佐久間象山の「夷の術を以つて夷を制する」ということであり、これが開国思想になつていく。

阿部正弘がアヘン騒乱と同じような不測の事態が起こらないとも限らないと、黒船の大砲が轟く前日に手紙を受け取る決断をしている。

アヘン戦争をどう捉えるかが大きく日本を動かし始めていた。これが、歴史が見直される時点になるだろうと思う。

#### ●第二の開国

憲法第九条に国際紛争解決

のための戦争を放棄するという文言が入っているが、殆んど同じ文章が昭和三年のペリリ本軍部は戦争への道を行っていった、それを日本の政府は止められなかった。

第二の開国は「無謀な戦争」という歴史記述を抹殺し、そして国際法を踏みにじつて満州事変にのめり込み、結果として懲罰的に第九条を国際社会、連合国から与えられたと考えている。

大川周明が昭和十四年に「日本二千六百年史」という大きな本を書いている。その中に、「ペリーが日本にきた時に、もしかしたら日本はアメリカとの無謀なる戦争に突入するかもしれないなかつた、しかし、当時の幕府のいい判断で開国に入った」との記述がある。しかし、この本は不敬であると国会でとりあげられ、結局抹殺に近い形となり、「アメリカとの無謀なる戦争」という箇所も削除された。

#### ●第三の開国

憲法というものは国の基本的な形を定める、外形的な原理であるから、第一の開国が行われた結果、天皇が憲法をつくるという形をとった。第二の開国の時には、日本がおかしな方向にいった結果としてアメリカ

はじめ国際社会によって憲法が作られた。その憲法を日本は五十数年間持ち続けてきた。

第三の開国がいつになるのか。新しい世界史の次元に対応できるような、国民を守る為の憲法を国民自身が作るという、新しいコンセプトの憲法がつけくりあげられた時にはじめて第三の開国になるのだと思う。

### 質疑・討論抜粋

日本のアイデンティティとは

〔松本氏〕

たとえば色彩感覚だが、江戸時代には色の名前が三千六百種類もあり、椀皮色、朱鷺色など赤だけで二百種類ある。自然に習ったものを日本の色としてのものづくりに変えている。日本の文化はものづくりということに一つのオリジナリティがあると思う。ここに日本人とは何かを確認する手だてが示されていると思う。

天皇制について

〔松本氏〕

本来的に言うくと、天皇というのは無為また無私、自然のような状態であつて欲しいというのが日本の考え方であつた。文化的な永続性を保つ存在として天皇制はアイデンティティを繋ぎとめるひとつの材料になると思う。

日本語について

〔キーン氏〕

日本語が残れば日本は大丈夫だと思う。日本として一番大

事なものだ。いくらパンを食べても、いくら洋服着ても、日本語をしゃべる人はそうである限り日本人だと思う。

〔松本氏〕

現在は、国語をできるだけ捨て去り、英語の方に移行するという教育だが、和泉式部の詩のように千年前の日本人が考えていたことが今我々に伝わるという国民は中々無いということをお願いしたい。アイデンティティをもつには、日本語をちゃんと話し、日本という一つの文化を理解できることが重要だ。我々はバイリンガルになり、世界史の中で生き抜いていく方法をとるとするのが結論だ。

日本人のモラル

〔キーン氏〕

現在の日本を救うような宗教があるとすれば多分儒教だろうと思う。

〔松本氏〕

私はそんなに簡単に儒教に行かない。現在の日本人に儒教とか仏教まで戻れ、あるいは神道まで戻れというのはなかなか難しい。例えば岡倉天心、内村鑑三、新渡戸稲造の本を英語で読ませるといふ形をとつていけば、なるほど日本人の心と心と繋ぎとめるという形で伝えられたのだな、また、それを我々がどう受け止めたらいいかという考え方が今の若い人に伝わり、繋がるかと考えている。

(文責 中山進)

# 関西歴史ツアーの記

小野博正(会員)

## 適塾の庭の隅なる石露の花

十一月十八日正午、新大阪駅で集合。関西歴史ツアー初日の参加者は二十一名(関西より四名、関東・名古屋より十七名)。

「米欧回覧の会」の関西支部幹事の山崎岳磨さんの案内で出発。男性七名、女性十四名の構成だった。まず、車窓より、春には桜の名所となり明治初年の建築という造幣局を横に見ながら、北浜にある「適塾」に向かう。小さな建物で驚いたが、中は意外に広い。ここで、幕末の人材を多く輩出した緒方洪庵とその妻の八重の生涯を偲ぶ。橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉、長與専斎、大島圭介、高松凌雲、佐野常民などの人材を育てた。

## 金色に天守聳える菊日和

次に訪れた大阪城は、幕末に家茂がここで亡くなり、慶喜が諸外国の大使らと会見した場



大阪城の菊泉水の前で

でもある。折しも、美晴城内の諸処では菊の展示があり、我々は喜々として、菊花を愛でてその香りを楽しんだ。また修復なって、金色に輝く豪壮な天守閣が秋空に聳え立っていた。戦時中はこの周辺はすべて軍事基地化していたと山崎さんの説明。その一画では、スコットランドの服装をしたパイプ奏者が、顔を少年のように紅潮させて、日本の歌やアメイジング・グレースを奏でていた。えべっさん宮司のしきる神の留守

車は、西宮神社に向かう。別名恵比寿神社である。震災で本殿が傾いたが、さすがに商売の神様のえびっさん。その年の暮れには、うん億円掛けて再建したと宮司さんから説明を聞く。このお目当てはむろん境内にある岩倉具視の旧邸の一部“六英堂”である。神戸の布引にあつたこの建物を、キヨソネの六英傑の肖像写真と共に頂いてきて、神社の看板とした“六英堂”の石碑も門前にいけ込んだ。中々に、ユーモアと商才のある宮司さんとお見受けした。

## 酔眼にけむる寒月露天風呂

バスは一路、六甲山の芦有ドライブウェイを経由して、有馬

温泉に向かう。途中、六甲の展望台から阪神のパノラマを展望する。有馬温泉は日本最古の湯治場であり、宿である月光園は川をとりこんだ大きなホテルで各種の温泉があり、早速湯につかる。宴では、全員からの



岩倉具視旧宅の前で(大場梅子会員撮影)

自己紹介があり、質問もとびかい大いに交流を深めた。夕食後も部屋に戻って、遅くまで談論風発、時を過ぎすうち小唄までとび出した。

## 霊山館出でしほてりに寒桜

十一月十九日有馬温泉を八

時に出発。京都の霊山歴史館に向かう。スケジュール通りぴたり十時着。

当日参加の関西支部の五名と京都歴史ボランティア協会の方々と合流。このガイドの方々のお陰で、京都の見学は実に充実したものになった。霊山歴史館では、岩倉具視没後二百年を記念しての特別展。ただ、岩倉だけでは地味で人を呼べないらしく、竜馬展も併催されていた。最近発見されたばかりだという旧岩倉邸(六千二百坪で建坪二千坪の旧忍藩邸・東京の馬場先門)の図面に一同感嘆する。この霊山歴史館は松下幸之助翁の肝いりで開設されたもので、隣接の墓地には志士たちの墓と同時に、パール判事の銅像も建っていた。

## 玉砂利を濡らす時雨の御所詣

昼食までの時間を、高瀬川沿いの幕末の志士のゆかりの地を散策する。桂小五郎と幾松の旧邸などあり。昼食は美濃吉、関西会員とも懇談する。そのあと、御所に向かうが、この頃から時雨だした。京都御所は、宮内庁のガイドに従って、紫宸殿、清凉殿、「小御所会議」で有名な小御所、御学問所、御池庭など拝観する。

## 幽棲の岩倉村の紅葉かな

最後に、郊外の岩倉村にある岩倉具視幽棲旧宅を訪ねる。五代目当主の岩倉具忠氏の出迎えをうけご説明を頂く。簡素な



大活躍の山崎氏と関西の会員(京都タワーホテル)

住居で、近くの実相院より岩倉の家来の住居として借り受けた次第が古文書で確認されている。ここで、維新の志士たちが密会したと言う。

最後に京都タワーホテルにて、再度東西会員の懇親会(十五名参加)を行ない解散した。今回の歴史ツアーは、山崎氏の周到な下準備と配慮のおかげで、ほとんどスケジュールどおりの順調な、そして実に実りの多い歴史ツアーとなった。心から感謝の意を表したい。山崎さんは八十才。普段山登り等で足腰を鍛えているとのこと、年齢を感じさせない矍鑠とした行動力と、歴史への限らない探究心に全員脱帽、最敬礼。

美しき老いのありけり冬日和(終)

# 十一月八日(土) 第三十回全体例会 NPO法人化問題についての議論

十一月八日(土)、国際文化会館ホールにて一般参加も含む第一部のビデオ上映会につき、第二部としてNPO法人化についての第三十回全体例会が行われた。

先ず、泉代表より当会の現状と将来に向けての諸課題について問題提起があり、続いて山田哲司氏よりNPO法人化問題の概要と問題点について、会報記事を資料として説明し、質疑応答に入り、活発な意見交換が行われた。

参加者からの主要な問題提起、意見は次のとおり。(順不同)

【提起・応答】  
Q 従来の活動との関係はどうなるのか



ビデオ上映会に続いて行われた第30回全体例会

- A 同心円的關係である
  - Q 事務量などの負担は増えるのか
  - A 事務局の負担は増加する
  - Q 法人化により会員の住所などは公表されるのか
  - A されない、但し、役員は氏名、住所を届出る
- 【意見】
- Q 世代間の交流をより深めよ
  - Q 経費問題は会員の増加で対応するのがよいと思う
  - Q 青年層、女性の会員の増加が重要
  - Q 子供向けの教室などを考えてはどうか
  - Q われわれの共通の理念は何かについて議論する必要がある
  - Q 知識、頭脳などの資産が、より具体的な形で資金化されるよう工夫することが大切
  - Q アットホーム的な集まりも必要だ
  - Q インターネットの活用が大切。ただし製作コストと収益とのバランスが難しい
  - Q NPO法人化に期待している。専従の事務局が必要。若

- い人も巻き込んで会員の総合力を結集する必要がある
- 海外との交流も視野に入れる
- 名称も大切だ、今の名称より大きい、若い人たちがなじみ易い名称を考えよう、二十一世紀にふさわしい名前はないか
- 会の中長期的な展望(十周年
- 事業なども含む)と永続的な財政基盤の確立が必要だ

## ★アンケートで参加を

全体例会は参加者が少なかったこともあり、NPO法人化を契機にした事業拡大の展望、新しい運営形態や名称などに関する具体的な試案提示およびアンケートを全員の方に送付し、より広範囲の会員から意見を聴取することになりました。

アンケートではNPO法人化問題に限らず、会が現在直面している諸問題についてもお聞きしたいと考えています。会の一層の前進のためには会員一人一人の参加が不可欠です。積極的なご発言を期待しております。

## 「岩倉使節の米欧回覧」ビデオ上映会開催

岩倉使節の米欧回覧  
ビデオ版 全3巻  
作・導 山田哲司 / 編集 泉 延太郎

ビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」全3巻が完成しました。本ビデオ版は、岩倉使節の米欧回覧の全行程を、最新の映像技術により、生々しく再現しています。また、岩倉使節の米欧回覧の全行程を、最新の映像技術により、生々しく再現しています。また、岩倉使節の米欧回覧の全行程を、最新の映像技術により、生々しく再現しています。

第1巻 米欧編  
第2巻 英仏編  
第3巻 政治編

ビデオ版のカラーチラシ(問合せは事務局まで)

(文責 山田哲司)

- 十一月八日(土) 十三時から、全体例会の前に同じ会場で、完成したビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」全三巻(合計九十分)の上映会が開催された。鑑賞後に参加者が記入したアンケートに、ビデオ版の評価が如実に表れている。
- 既にスライド版を見た経験のある人には、
- ・以前より相当見やすく疲れなくなった
- ・スライドも見事なものだったが、ビデオは全体を把握するのに役立った
- ・写真も多く取り入れられて分かりやすくなった
- ・また、初めて見たと思われる人も、
- ・シナリオ、資料、写真とよくまとまっている
- ・米欧回覧への熱意が伝わってきた
- ・人口など数字が明確に出ていて参考になった
- ・目からうろこの感じを受け、

- とても良い勉強になった
- ・白黒、カラーのコントラストに魅せられた
- ・米国に約二百日間の滞在でプレスだけでなくマイナス部分も観察していた使節団に驚かされた
- と新鮮な感想を述べている。
- 疑問や問題点としては、
- ・スエズ運河通過後のアジア各地訪問ももう少し触れて欲しかった
- ・米国編は色々エピソードがあつて面白いが、後半はそれが少ないようだ
- との感想があり、見るべき世界そして関心ある世界は更に広いことを示している。
- ビデオ版の生かし方については、版權や著作権の課題はあるものの、貸し出しや販売して多くの人に見てもらいたいという意見が多かった。特に、中高生の副教材に相応しいと考えられる人が多い。また、全国各地で講演と上映の会を開催したいという積極的な提案もあった。

歴史部会・新企画  
**日本近現代史**  
**連続セミナー案内**

中村政則教授による第二十九回全体例会(二〇〇三年七月)の講演「近代日本・三つの岐路」は、ニュース三十二号で報告された通り大変好評だった。そこで、歴史部会ではこれに続く三回の連続セミナーを企画した。

日本近現代史を三つのテーマに絞りテーマ毎に細部にわたる説明が加えられる。質疑応答の時間も十分用意してあり、活発な質問、意見、問題提起が期待できる。会員や前回参加の方のみならず非会員の方の参加も歓迎する。

◆講師

中村政則氏(神奈川県立大学教授、一橋大学名誉教授)

(プロフィール)

一橋大学教授を経て現職。専門は日本近現代史。著書に『近代日本地主制史研究』

(東大出版会、一九七九年)

『昭和の恐慌』(小学館、一九八二年)、『明治維新と戦後改革』(校倉書房、一九九九年)、監訳書に『歴史として

の戦後日本』(上・下)(アンドルー・ゴードン編著、みすず書房、二〇〇一年)など多数。

◆講演テーマ・日時

- ① 「大正デモクラシーの運命」  
一月二十九日(木)  
午後六時〜九時
- ② 「いつだったたら戦争は防げたか」  
二月二十八日(土)  
午後二時〜五時
- ③ 「戦後日本の岐路」  
三月二十七日(土)  
午後二時〜五時

◆会場

学術総合センター会議室(神田一橋)

◆会費

各回二千元  
問合せは歴史部会、半澤健市まで。

二〇〇四年歴史ツアー  
**北海道の旅案内**

二〇〇四年歴史ツアーへの参加希望者は現在三十一名。松前の旅館の都合で定員は四十名であり残りの枠は九名となった。

世話人の松前孝広氏、石川直義氏を中心にしたツアー企画の具体化が着々と進行している。松前・函館・小樽・札幌観光の他、各種の講演会が企画され、札幌では新著を上梓されたばかりの田中彰・札幌大学名誉教授の講演会が予定されている。以下に計画の骨子を中間報告する。申込み、詳細の問合せ、

実記を読む会報告

連絡 クラウンインターチェンジ

Tel 03-5469-2090 Fax 03-5469-2093

info@crown-interchange.com



■第六十七回・貨幣、都市など

十月二日に開催。今回はアメリカ編、第十八巻の貨幣について(三二二―三二五頁)、各都市の評判(同じく十八巻三二八―三三〇頁)および十九巻の米国各州の繁栄競争(三三六―三三七頁)等の原文音読の後、水澤氏が現代語訳と解説をされた。そして出席者間の自由な意見交換、質問などが交わされた。

また水谷氏より、日本経済新聞文化欄に掲載された「横浜港の父グラント将軍」の記事が配られ説明があった。一八五九年六月二日は横浜の開港記念日だが、それに尽力したグラント将軍は、岩倉使節団とアメリカで会見している。また一八七九年に日本に立ち寄った時には明治天皇にも拝謁しているとか。ちなみに岩倉使節団が乗った「アメリカ号」は横浜港が開港したものの貧弱な港で、波止場に着岸できず、具視らは三人乗りのはしけで「象の鼻」と呼ばれた堤あたりから本船に向かったとのこと。

その他、「ミスターフィラデルフィア別働隊」こと合田

さん(別働隊について克明に現地を調べた方)から、肥田為良の工場視察、一八七二年三月二十一日付けの現地新聞に載った「The Japanese」の記事、大久保利通の息子がフィラデルフィアのマンチェスター・アカデミー入学当時の記録発見などについて解説があった。

■第六十七回・バイブル他

十一月六日に開催。学習した箇所はアメリカ編、第十九巻バイブルについて。(三四二―三四五頁)

まず原文の音読がなされ、次に水澤氏による現代語訳が朗読された。久米の宗教観、カソリックとプロテスタントについてなど。日本人の宗教観と外国人との違いも会員間で意見交換があった。

「外国人ノ基地ニ至ル時ハ、必ス問フニ崇スル教、拜スル神ハ何ナルヲ以テス、若シ宗教ナキ人ナレハ、之ヲ認テ喪心ノ人、獷野ノ民トシ、慎テ交際ヲ絶ニ至ル」

次にロレンスの紡績会社、第二十巻(三五八―三六三、三六三―三六四頁)及びこの巻最後となる久米のアメリカの印象(三六九頁)を音読、現代語訳がなされ、アメリカ編を終わりとした。

(文) 多田幸子 会員

歴史部会報告

連絡 半澤 健市

Tel&Fax 03-3717-5576

khanzawa@dh.catv.ne.jp



■満鉄調査部の歴史的考察

九月三十日(火)午後六時半より、国際文化会館のセミナールームで、永富邦雄氏の報告「満鉄調査部の歴史的考察」があった。そのレポートは、(一) 南満



歴史部会 (国際文化会館)

州鉄道株式会社の創立の経緯、(二) 満鉄調査部の変遷と実績、(三) 満鉄から学ぶもの(国家情報機関の必要性)という構成で、数々の貴重な資料を準備し、巨大調査機関の概要を明快に説明された。

なお、後日、永富氏より「岩倉使節団」との関連について追加のコメントが送られてきたので紹介する。

「米欧回覧で吸収した膨大な情報は帰国後それぞれのジャンルに分類し、その掌に携わる方々が今後の日本にどう反映

また、参加希望者の変更希望などの連絡は世話人の石川幹事まで。

◆基本日程

【五月七日(金)】

・函館九時着(羽田発七時四十五分)、松前直行

・松前藩屋敷で昼食(特別料理)の後、矢野旅館チエックイン、そして花見満喫の散策

・十七時三十分から講演  
「松前の歴史」松前孝広氏など

【五月八日(土)】  
・松前九時発、函館へ  
・函館観光(昼食は駅前五島軒)宿泊(湯の川ホテル平成館)



旧函館博物館一号  
(明治12年・函館公園内)  
日本に残る最古の博物館

一泊の方は函館空港から帰京。

【五月九日(日)】

・湯の川九時発、大沼公園、長万部(昼食) 經由小樽着

・小樽観光  
宿泊(小樽ヒルトン)  
夕食後講演

山田家正氏北海道開拓記念館館長(元小樽商大学長)

【五月十日(月)】

・小樽九時発、札幌へ  
・札幌観光(昼食はサッポロフアクトリー)

・映像と講演会  
十三時三十分〜十六時  
田中彰氏(札幌大学名誉教授)  
・新千歳空港二十一時十分発(羽田二十二時四十五分着)

◆基本料金(二人)

・一泊コース五万五千元  
・三泊コース十万五千元  
(往復何れか予約便以外を使用の方は追加料金が発生)

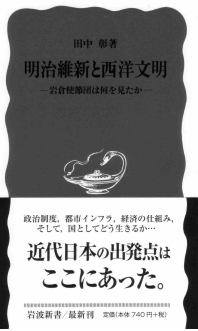
出版案内

この本は『実記』の校訂者である田中彰氏が多年の研究をもとに、西洋文明見聞録としての「雑ニシテ統ナキ『実記』」を項目別に整理し、各種のコメントも添えて分り

「明治維新と西洋文明」

田中彰著 岩波新書

「岩倉使節団は何を見たか」  
やすく紹介した書であり、一読を薦めたい。



風に捉えていくのが良いか、自由闊達に議論をしようという

現未来部会報告

連絡 塚本 弘

Tel 03-3211-2765 Fax 03-3213-1371



tn@ne.jp

●日本の政治

十月三日(金) 十五名が参加して国際文化会館で定例の部会が行われた。

米欧使節団の人達が当時のアメリカ、ヨーロッパ、アジアを見た志で現代の日本、将来の日本をどういう

させていくかに腐心されたと思えます。中でも当時欧米の大國は虎視眈々と植民地政策の拡張を謀っていること、どのように対処するかが共通の認識であり、その後の外交政策をみればその事実が十分窺い知れます。  
特に朝鮮國が王朝と両班の腐敗から統治能力を喪失し、清國も同様な国内情勢で、この隙を狙う帝政ロシアの東方政策が如何に脅威であったかは歴然としています。その延長線上に日清戦争、日露戦争が起きたといえます。こうした歴史をみていくと南満州鉄道株式会社の設立も当時の日本にとって死活の問題であったと考えられます。」  
(写真) 岩崎洋三 会員

英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

zaa96087@oak.zero.ad.jp



●『実記』片カ  
ナのパスル解き

難解な漢語の壁がとれ、本の中味が手に取るようになって分かって大喜びしてから早や九カ月。英訳実記を読み進むうちに、前はさほど気にならなかつた原書(岩波文庫)中の片カナが気になり、パスル解きが始まった。その一つが地名。例えばLaramie ララミーが何故「ルワメー」(文庫一五六頁)に化けたのかきくと帰国後久米が自らの流麗な筆記体のメモを見てとつさに ara を wa ととり違え、Lwa ルワと読んでしまった、と私は邪推。また同頁の「チエーエネー」が実は Cheyenne シヤイアンだったのは、ch をチと読む蘭英語の教養が邪魔したのに違いなく、これも帰国後の綴り頼りの結果だろう。シヤイアン市からの返信メールには、市名の起源は先住民の Shey-an-nah に因むとあったが、Sh よりも Ch が採られたのは仏領ルイジアナ時代の名残だろうと勝手に決め込んでいた。  
ただ、シヤイアン族が当時はまだ侵略者白人との死闘抵抗のさ中であつたことを学ぶにおよび、使節団一行のその辺りについての感慨や如何、この思いも禁じ得ないこの頃です。  
(文) 坐古義之 会員

【速報】

ペーター・パンツァー氏、翻訳賞受賞!

昨年刊行された同氏の「米欧回覧実記」(ドイツ語圏)のドイツ訳が、このたび国際交流基金により翻訳賞を受け、ケルンの日本文化会館で野呂公使より表彰されました。

### 「米欧回覧の会」ご案内

**趣旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。  
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。  
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

**会員** 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

**例会** 年に4回くらい全体例会をもちます。

**部会** テーマ別に読む会、歴史、現未来、メディア部会等があり、映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。

**機関紙** 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

**幹事** 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

**会費** 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。

**事務局** 当面「イズミ・オフィス」に置きます。  
〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16  
E-mail: info@iwakura-mission.gr.jp  
TEL: 0426-46-3310  
FAX: 0426-45-8700

#### 入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所・TEL・FAX)現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお年会費は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 米欧回覧の会

### <催し案内>

2003年12月～2004年3月の予定です

#### ☆新年懇親例会

日時：1月26日(月) 18:30～20:30  
場所：松本楼(日比谷公園内)  
テーマ：スイス  
会費：8000円

#### ☆実記を読む会

日時：1月8日(木) イギリス  
場所：南青山クラウンインターチェンジ内サロン  
電話 03-5469-2090

#### ☆英訳実記を読む会

日時：12月18日(木) 18:30～21:00  
場所：国際文化会館 セミナー室  
会費：1000円(食事・飲物はでません)  
世話人 岩崎洋三 [zaa96087@oak.zero.ad.jp](mailto:zaa96087@oak.zero.ad.jp)

#### ☆歴史部会

テーマ：日本近現代史(連続セミナー)  
講師：中村政則氏(神奈川大学教授)  
日時：①1月29日(木) 18:00～21:00  
「大正デモクラシーの運命」  
②2月28日(土) 14:00～17:00  
「いつだったら戦争はふせげたか」  
③3月27日(土) 14:00～17:00  
「戦後日本の岐路」  
場所：学術総合センター会議室(神田一橋)  
会費：2000円(各会)  
\*照会は半澤健市 [khanzawa@dh.catv.ne.jp](mailto:khanzawa@dh.catv.ne.jp)

#### ☆現未来部会

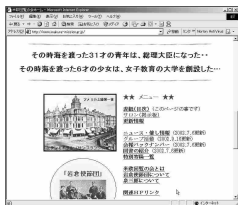
テーマ：アメリカはどんな国か、日本はどう向き合うのか  
講師：吹田尚一氏(元三菱総研常務)  
日時：2月6日(金) 18:30～21:00

### .....ホームページのご案内.....

- ◇米欧回覧ニュース第1号からのバックナンバー
- ◇会の催し・部会活動の速報
- ◇<群像>岩倉使節団とその周辺(パネル30枚)
- ◇インターネットサロン(会議室) など

\* 皆様のご意見をお聞かせ下さい  
(ホームページ編集に関心のある方歓迎します)

<http://www.iwakura-mission.jp>



#### 編集後記

◇日米交流百五十年記念シンポジウムは百四十人が参加して会場は満席でした。大勢の方が記入した質問・意見用紙の回収などで少人数の裏方は大忙し、足りなくなつたコピーブレイクの飲物の追加が間に合いませんでした。

知名度の高いキーン氏、松本氏の講演に加えて、テーマである「アメリカングローバリゼーション」と日本のアイデンティティに対する関心の高さが伺えます。

◇一方で、NPO法人化問題を討議する全体例会への参加は少人数に留まりました。当会の現状と将来の運営を考えた議論の結果、NPO法人化が必要とする幹事会と、多くの会員の関心の間に温度差があるようです。

ニュース編集の観点からの関心は会の公的な性格が明らかになることです。今までの、執筆依頼による紙面構成、バックナンバーのホームページ掲載を無意識に行っていました。が、執筆者の権利や二次使用のルールなど、未整備な部分が多いことに気が付きます。何らかの活動に参加している以上、NPO法人化は身近な問題に必ず係ります。